

学校教育課だより

かけはし

風土千年の「風の人」と「土の人」

と「土の人」

教育長 勝又 将雄



新年、あけましておめでとうございませう。今年は「申年」。平成二十八年のスタートです。慌ただしい年末年始の休暇ではありましたが家庭生活で心身をリフレッシュできたでしょうか。いよいよ後期後半のスタートとなります。

東日本大震災から五年が経ちます。改めて震災後の被災地の皆さんの今置かれた生活を思います。風土十学者の「景観十年、風景百年、風土千年」の言葉を聞いたことがあります。「風土」には千年の歳月が

必要です。我が御殿場市の風土にどんな「風」と「土」を思うでしょうか。私は、人が生活することにおいて「風の人」と「土の人」の存在を受け止めます。文化の種をまく人とそれを育てる人の両方あつての風土ですが、やはり受け止めて育てる「土の人」の存在は大きなものがあります。これまでも校風、家風、気風の話のいろんな場ですてきました。家庭、学校、地域に流れる風は別々ではありませんが必ず影響を及ぼし合います。

学校教育課だより
「かけはし」
【第9号】
平成 28 年
1 月 8 日発行
御殿場市教育委員会



御殿場らしい風土とは何か、
と思いを馳せませう。

学校は組織で動いています。組織とは「不完全なものが集まって、完全なものを目指すもの」と言われます。「チーム○○」と呼ばれることも分かります。いろいろな特性を持ち合わせた方が、縁あつて同じ学校で一緒に仕事をされています。「群れること」と「集団」とは異なります。集団でやることの中で、自分を見つめられます。

蛇足ですが、仕事と労働の違いを「仕事は将来に残る生産物を残すこと」と喝破した人もいます。仕事仲間の存在意識なくして個人の仕事は成立しないだろうと思います。「のりしろ」の部分を意識してそれぞれの分掌において、さらに、より子ども目線、よ

り保護者目線、学校現場主義を自覚して、机上プランではない生きた教育活動が推進されることを願っています。

◇ヤマトホールディングス代表取締役会長木川眞氏のご講演を聞く機会がありました。木川氏は、約二十万人の正規社員を擁するヤマトグループのトップです。お話で一番記憶に残ったのは、ヤマトは我なりへの「社訓」です。ヤマトは我なりへの「全員経営」のことです。教育界でいえるは、「学校経営」「学年経営」「学級経営」という「経営」の在り方です。一般の方には「企業の利潤追求」のイメージしかないものと思えますが、「子どもの向上的変容」成長の結果として求める教育界では、その「企業経営」の話を理解できるように思います。東日本大震災後の地元発想の取組も、震災復興への「宅急便ひとつに「希望」をひとつを入れたい」の企画事業も、「企業事業だから」と割り切ることで「心」を持つ取組に心と感動をもらいました。

**教師力向上講座
第五・六回「架け橋」**

今年もよろしくお願いいたします。

第五回は、南中学校の横溝千都生先生が、「体験型科学教育」というテーマで講義を行いました。講師の横溝先生は、休日の自主研修をはじめ、様々な研修を積極的に積み重ね、そこから得た豊富な教材・教具を授業に活用しています。工夫された魅力ある教具は、子どもたちの学びを深めていくということに参加者が実感できるように、研修充実に十一月に本講座を実施しました。

◇年を改めたところで、「十七年度の締めくくり」の時期に入ります。様々な思いを抱

いて新年を迎えたものと推測します。「日々新」の日常生活の積み重ねの先に見える「新しい自分・世界」を思います。その学校らしい、その学級らしい「締めくくり」を意識した教育活動の集大成を大いに期待します。

横溝先生が提示する資料は、参加者自身の興味・関心をかき立て、その教具を基にした活動は、モデルとなる授業構想をイメージさせるものでした。また、学習指導力と生徒

指導力は両輪と言われているが、横溝先生の講義中の指示や語り口からも、参加者は多くのことを学ぶことができた。



年間、兵庫教育大学教育実践高度化専攻生徒指導実践開発(学級経営)コースに長期研修員として派遣されました。そこで、集団作りについて学びながら、一年間の学級経営を振り返ることができるよう、本講座を十二月に実施しました。



持田先生の演習を交えながらの講義は、積極的な生徒指導のための「子どもの見方」「子ども理解」「子どもへの接し方」などについて分かりやすく学べるものでした。また、全ての教育活動の基盤となる「教師と子どもの人間関係」「子ども同士の人間関係」の大切さについても再認識することができました。

**平成二十七年
御殿場市研究指定校発表会**

◇十月三十日(金)に、富士岡中学校区の「幼小中連携・一貫教育」における三年間の取組をまとめた発表会が開催されました。午前中に、富士岡幼稚園と富士岡小学校での公開保育及び公開授業、午後

になって、富士岡中学校で公開授業と全体会が行われました。全体会では、研究主任による研究成果の報告、本研究に三年間、携わっていた、東京大学大学院准教授の藤江康彦先生の講演がありました。藤江先生には、これまでの取組を継続していくために、状況に合わせて変革していくこと、学び続ける教師の

と思えます。

(中学校教員)

最後になりませんが、年間六回開催した本講座の運営にお力添えをいただきました関係者の皆様にこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。
【石田善正】

姿をつなげること、地域の学校という視点を持つことの三点を示唆していただきました。本研究の大きな成果の一つに、子どもの育ちや学びの連続性を保障するために、各学年で身に付けたい力を明確に示したシラバスの作成が挙げられます。シラバスの作成により、お互いの教育活動の見える化、共有化が図られ、足並みをそろえた教育活動の展開が可能となりました。このシラバスは、富士岡中学校区だけではなく、御殿場市の大きな教育財産となりました。



発表会当日は、全学級が国語の授業を公開しました。学年で同一単元の異なる時間の授



富士岡中学校区の先生方、三年間に渡る研究への真摯な取組、ありがとうございました。

◇十二月四日(金)には、御殿場南小学校の「学力向上・授業改善」の中間発表会が開催されました。御殿場南小学校では、国語を窓口教科として、「思いや考えを伝え合い、進んで学びを深める子の育成」を研究テーマに掲げ、研究を進めてきました。

御殿場南小学校の先生方には、四月から、研究の方向性を見定めながら、チーム南小として、熱心に取り組んでいただきました。次年度の本発表に向けての取組についてもよろしくお願いたします。研究指定校における取組の成果が、今後、市内の幼稚園、小中学校に広まっていくことを期待しています。

【長澤広志・小越隆則】

第六回は、富士岡中学校の持田晃寿先生が、「積極的な生徒指導の基盤となる児童生徒理解〜児童生徒理解の無自覚性と多様性の気づきに焦点をあてて〜」というテーマで講義を行いました。講師の持田先生は一昨年度と昨年度の二

・大人が受けてもワクワクする活動だったので、子どもたちはもっとワクワクするのだと思います。机に向かって教科書を見ながら教える時間も大切ですが、子どもたちが試行錯誤しながら、答えにたどりついていけるような活動こそ、忘れられない学びとなり、子どもたちの大切な知識や経験として身に付いていくと感じました。このような場を子どもたちにたくさん提供できるように、自分も研修を深めていきたいです。(小学校教員)